

# まちの日記帳



色とりどりの  
アクセサリーが完成  
老人クラブ「宝寿会」例会

5/25

美国地区老人クラブ「宝寿会」(小寺猛会長)の例会が総合文化センターで開催されました。

今回の内容は手芸教室。貝殻を使ったアクセサリー作りに挑戦しました。

「だんだんと参加者が増えてきている。」と小寺会長が話すとおり今回の参加者は30人とたくさんの方が集まりました。

参加者は、和気あいあいと談笑しながら約2時間の作業に没頭し、色とりどりできれいな作品がたくさん完成しました。

今回作った作品は、秋の文化祭に出品する(こと)としています。



口蹄疫の侵入を防ぐ  
関係機関で連絡会議を設立

6/10

町、農協、商工会、観光協会等が構成する積丹町口蹄疫侵入防止対策連絡会議の設立会議が総合文化センターで行われました。

この会議は、本格的な観光シーズンを迎えることから、農業者や観光業者、行政関係機関の連携により口蹄疫の侵入防止に取り組むものです。

消石灰の散布や消毒マットで口蹄疫の侵入を阻止し、安全で安心な畜産物の生産のため、地域が一体となった取り組みが求められています。



32人で楽しい旅行  
第2回リフレッシュ学級  
視察研修

6/10

第2回目のリフレッシュ学級「視察研修」が開催され、32人が参加しました。

今回の視察は、「北海道開拓の村(札幌市)」と「百合が原公園(札幌市)」の2カ所で、初夏の暖かい日差しのなか、参加者は持参のノルディックウォーキング用のポールを使うなどしながら公園内の散策を楽しみました。

大勢での旅行は普段の生活と少しだけ離れ、心身がリフレッシュする有意義な時間となりました。



普通救命講習会を開催  
命を救う知識と措置

6/11

町教育委員会が主催する普通救命講習会が海洋センターで開催され、11人が参加しました。

町内の公共施設などに設置されているAEDの使用方法や救命措置について、4時間の講習が行われ参加者はもしものときのため、終始真剣な眼差しで受講しました。

終了後には、受講者全員に修了証が手渡されました。

大切な人の命を救うためには、正確な知識と落ち着いた救命措置が大切です。



大きくなあれ!

第2回少年教室

そば種まき体験

6/12



町教育委員会が主催する第2回少年教室「そば種まき、サツマイモ栽培体験」が美国町「キッズファーム」で行われました。この取り組みは子どもたちに畝(うね)の切り方や種まきの仕方を学んでもらおうと昨年から実施しているもので、そばの種まきのほか、サツマイモと枝豆の苗の植え付けを行った今回は、児童13人と地域のボランティアの合計21人が参加しました。

今後開催される少年教室で草取りを行い、収穫作業や石臼を挽いてのそば作りと試食会を予定しています。

余別トンネル工事現場を見学

完成は来年度を予定

6/14



平成22年1月から掘削工事に着手した余別トンネルで工事現場の見学会が行われ、余別小学校や地域住民合計23人が参加しました。

小樽開発建設部の担当者からトンネルはなぜ必要なのか、なぜ丸いのかなどのお話を聞いた後、普段はなかなか見ることのできない工事中のトンネル内を見学しました。

7月6日の貫通式を間近にした5月20日現在で貫通まで残り100日となっています。

治山施設内の雑木除去

後志管内初の取組

6/19



(社)北海道森林土木建設業協会後志・倶知安両支部は町内の建設業者や住民と協働で、美国町研修広場背後の治山施設の伐枝や清掃を行いました。

この取り組みは、両支部と後志総合振興局により締結された森林災害復旧支援等に関する協定に基づき、社会貢献活動の一環として初めて実施されたもので、総勢77人が参加しました。

土砂の崩落などを防ぐことを目的に設置されるコンクリート壁の周囲の雑木が伸び、近隣の住宅へ落枝することを防止するなどの目的で実施され、参加者は約2時間の作業に汗を流しました。

よい歯の子

8020表彰式

今年のよい歯は101人

6/22



「積丹町子ども歯を守る会」(尾立光会長)の主催による「第23回よい歯の子・第20回8020表彰式」が総合文化センターで行われました。

今年度の表彰者は、幼児10人、小学生67人、中学生23人の併せて100人。そのうち健全歯(1本の虫歯もない子)は15人でした。

また、80歳以上で20本以上自分の歯を持っている8020表彰式では、宮川道夫さん(美国町)が表彰されました。